

企画展「石に刻む—とどめる記録、まじわる思い—」

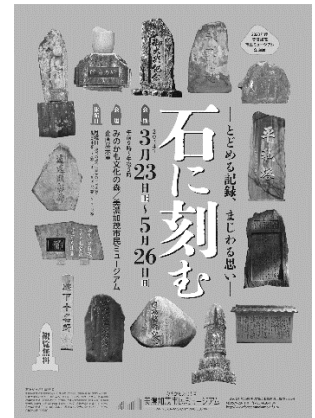
会 期：2023年3月23日(土)～6月26日(日) 〈57日間〉

会 場：企画展示室

展示点数：総展示点数 103 件（うち石碑パネル 49 点）

観 覧 料：無料

入場者数：1,940 人



【内容】

長い歴史のなかで、人は実に多彩な手段によって物事を記してきました。そのなかで石に彫りあらわすということも、人々が古来より続けてきた主要な方法の一つです。石は古くから信仰の対象であり、野ざらしで風雨を受けても永くかたちを保つことができました。また石は素材としてごく身近な存在であったため、あらゆる人々が造立に深く関わることができたのでしょう。私たちの身の周りには今もたくさんの石造物がのこり、そこには名称をはじめ、個人・集団の名前やその経緯、神仏の姿や年代などあらゆる事柄が刻まれています。

この展覧会では、美濃加茂市を中心にわたしたちの身のまわりに点在する、さまざまな石に刻まれたものを取り上げます。土地改良碑や顕彰碑、災害伝承碑、戦争記念碑、石仏や道標など多種多様な石造物は、地域の信仰、事件や出来事、また社会情勢を知るための大切な記録であり、人々が紡いできた暮らしの一端を留めています。一方で、それらの造立の背後には、発願者や寄進者、碑文の執筆者や撰文者、石工をはじめ、たくさんの人物の存在があり、それぞれの思いがまじわる中で完工に至りました。そこには、ある時代を生きぬいた人々のひたむきな心が浮き彫りにされています。

今なお、各地で造立され続けている石碑。景色に溶け込みながら、静かに立ち続ける石に耳を傾け、息づく歴史に目を向けることで、「石に刻む」という人の営みについて、改めて考える機会にしたいと考えます。

【関連事業】

□ミュージアムトーク

4月3日(水) ①10:00～11:00 参加者 17 人 ②13:30～14:30 参加者 5 人

5月3日(金) ①10:00～11:00 参加者 3 人 ②13:30～14:30 参加者 26 人

内 容：担当学芸員が展示室を案内した。

会 場：企画展示室

□特別講演「記念碑を建てるということ」

4月28日(日) 13:30～15:00 参加者：57 名

内 容：「記念」するという行為と、記念碑とは何かについてお話いただいた。

講 師：羽賀祥二氏（名古屋大学名誉教授）

会 場：緑のホール

□拓本講座 「刻まれた石をうつす」

5月19日(日) 13:30～15:30 参加者：11名

内 容：刻まれた文字やかたちを紙に写し取る技法、「拓本」を実物で体験いただいた。

講 師：担当学芸員

参加料：500円

会 場：工芸室、太郎洞池畔(林奨紀功碑前)

□現地ツアー「刻まれた石をめぐる」

4月20日(土) 13:00～16:00 会場：三和町※ 参加者：14名

5月11日(土) 13:00～16:00 会場：人物・文学関係の碑 参加者：6名

5月12日(日) 13:00～16:00 会場：戦争・土木関係の碑 参加者：14名

内 容：身のまわりにある石造物をたどり、その地の歴史や先人たちの姿に思いをはせた。

※三和まちづくり協議会との共催イベントとして開催

【刊行物・ミュージアムグッズ】

展示図録 A4判 22ページ 販売価格 500円

【展示品】

No.	形態	資料名	点数	制作年	大きさ	所蔵/所在地
1	○	木根橋石碑	1	弘化2年	—	川辺町西栃井
2		木根橋石碑「石引之圖」	1	弘化2年	15.5×20.2	館蔵
3		木根橋碑陰之記	30	弘化2年	17.0×41.5	館蔵
4		『美濃國加茂郡誌』	1	大正10年	22.5×15.5	館蔵
5		玄能	1	大正～昭和	20.0×6.0	個人蔵
6		鑿	10	大正～昭和	—	個人蔵
7	○	坪内逍遙顕彰碑	1	昭和34年	240×165×60	太田本町
8		坪内逍遙博士顕彰会綴	1	昭和31年	26.0×19.8	館蔵
9		坪内逍遙顕彰会について	1	昭和31年	25.7×18.0	館蔵
10		逍遙庭園建設の趣意	1	昭和31年	27.5×18.1	館蔵
11		碑文に関する手紙類	3	昭和32～33年	—	館蔵
12	○	井上太十郎頌徳碑	1	昭和24年	188×85×19	伊深町大洞
13	◇	「伊深日記」43巻・44巻	1	昭和24年	—	個人蔵
14	○	白隠禅師旧跡碑	1	昭和60年	260×75×51	山之上町中之番
15	○	林奨紀功碑	1	昭和18年	253×110×16	蜂屋町中蜂屋
16		小田嶋源太郎顕彰碑草案	1	—	66.0×38.0	館蔵
17	○	耕地整理記念碑	1	明治44年	198×94×15	本郷町
18		大畑市太郎像	1	昭和初期	34.0×22.0×34.0	館蔵
19		耕地整理現形並豫定圖	1	—	65.9×112.8	館蔵
20	○	水神碑	1	明治33年	49×21×21	下米田町山本
21	○	三界万霊塔	1	享保20年	120×44×32	山之上町上野
22	○	水神記念碑	1	明治29年	153×43×18	山之上町西洞

No.	形態	資料名	点数	制作年	大きさ	所蔵/所在地
22	○	水神記念碑	1	明治 29 年	153×43×18	山之上町西洞
23	○	石坂池竣工記念碑	1	大正 11 年	115×71×19	新池町
24		池費領収証	1	大正 9 年	25.0×18.0	館蔵
25	○	修道之碑	1	明治 32 年	88×175×25	三和町中川浦
26		神淵街道修繕費取調帳	1	明治 26 年度	24.4×17.0	館蔵
27	○	秋葉神社碑	1	明治 29 年	92×46×23	下米田町信友
28		溜池新設仕様帳	1	明治 28 年度	27.5×19.0	館蔵
29		字宮洞新池人夫帳	1	明治 29 年	31.0×12.3	館蔵
30		人夫通	19	明治 29 年	19.0×13.5	館蔵
31	○	溜池記念碑	1	明治 29 年	158×112×32	森山町
32		溜池復旧に関する文書	1	—	24.5×33.2	館蔵
33		大木溜池人夫牒	1	明治 25 年	19.0×14.0	館蔵
34	○	災害復興記念碑	1	昭和 46 年	174×100×29	三和町下川浦
35		8.17 集中豪雨災害に関する綴	1	—	27.0×18.0	館蔵
36	○	坪内逍遙歌碑	1	—	72×64×39	太田本町
37		色紙「山椿の歌」(坪内逍遙筆)	1	大正 11 年	24.1×33.2	祐泉寺 蔵
38		色紙「山近水長」(坪内逍遙筆)	1	大正 11 年	24.0×27.1	祐泉寺 蔵
39		葉書 (坪内逍遙筆)	1	大正 11 年	14.0×9.0	祐泉寺 蔵
40		葉書 (坪内逍遙筆)	1	大正 11 年	14.0×9.0	祐泉寺 蔵
41		坪内逍遙歌碑 拓本	1	—	28.0×31.0	館蔵
42	○	北原白秋歌碑	1	昭和 17 年	55×66×16	太田本町
43		葉書 (北原白秋筆)	2	—	14.0×9.0	館蔵
44	○	武田耕雲斎歌碑	1	—	127×44×44	太田本町
45		武田耕雲斎歌碑 拓本	1	—	58.2×30.5	館蔵
46	○	長尾和男詩碑	1	昭和 58 年	115×178×30	島町
47		長尾和男詩碑 建立関連資料	7	—	—	館蔵
48	○	蜂屋元禄俳人之碑	1	昭和 7 年	106×50×10	蜂屋町上蜂屋
49	○	征清記念碑	1	明治 30 年	143×101×29	三和町下廿屋
50		征清記念碑建設ニ関スル記録	1	明治 29 年～45 年	27.5×19.5	館蔵
51	○	征清碑	1	明治 36 年	280×228×12	清水町
52	○	忠君報國之碑	1	明治 36 年	296×159×27	清水町
53		兵事ニ関スル永久保存書類	1	明治 29 年	25.0×17.0	館蔵
54	○	表忠碑	1	明治 45 年	326×143×143	加茂野町市橋
55		乃木希典の揮毫に関する書簡	2	—	各々	館蔵
56	○	忠魂碑	1	大正時代	380×140×24	蜂屋町上蜂屋
57	○	表忠碑	1	大正 3 年	340×148×25	下米田町則光
58		戦没者ニ関スル書編	1	昭和 21 年 3 月～	28.8×20.3	館蔵
59		通牒「公葬について」	2	昭和 21 年	25.7×36.0	館蔵

No.	形態	資料名	点数	制作年	大きさ	所蔵/所在地
60		通牒「学校及び其の構内に存在する忠霊塔、忠魂碑等の撤去について」	1	昭和 21 年	25.0×36.0	館蔵
61		通牒「忠霊塔、忠魂碑等の措置について」	1	昭和 21 年	25.7×17.2	館蔵
62	○	平和塔	1	昭和 7 年	382×150×18	清水町
63		絵葉書	2	—	14.0×9.0	館蔵
64		忠魂碑移転に関する会計	2	昭和 25 年	25.8×18.2	館蔵
65	○	忠魂碑	1	昭和 26 年	275×96×21	伊深町下本郷
66	◇	忠魂碑除幕式 式辞文案	1	—	—	個人蔵
67	○	開校百年碑(山之上小学校)	1	昭和 48 年	240×70×18	山之上町中之番
68	○	開校百年碑(加茂野小学校)	1	昭和 53 年	209×125×80	加茂野町今泉
69	○	開校百年碑(蜂屋小学校)	1	昭和 48 年	275×45×19	蜂屋町上蜂屋
70	○	修学旅行記念碑	1	昭和 55 年	140×120×38	山之上町中之番
71	○	秀文義校之跡碑	1	昭和 48 年	94×63×24	伊深町下本郷
72	○	恩師之碑	1	大正 2 年	240×118×19	山之上町中之番
73	○	森翁之碑	1	明治 37 年	151×73×21	牧野
74	○	発起人碑	1	明治 44 年	90×66×19	西町
75	○	大峰山三十三度供養記念碑	1	大正 9 年	98×50×10	西町
76	○	鶏霊塔	1	昭和 32 年	85×55×12	太田本町
77	○	畜生供養碑	1	明治 17 年	112×82×18	三和町中川浦
78	○	草木供養塔	1	昭和 40 年	106×50×20	加茂野町稲辺
79	○	廻国供養塔	1	正徳 3 年	130×80×30	太田町
80	○	廻国供養塔	1	文政 2 年	88×45×25	三和町上廿屋
81		神社仏閣 納経帳	1	弘化 3 年	24.5×17.0	館蔵
82		西国巡礼手引案内	1	寛政 5 年	7.7×18.4	館蔵
83	○	廻国供養塔	1	安永 9 年	89×30×30	川合町
84		西脇村長右衛門遺児継送り添状	1	弘化 2 年	15.9×105.9	館蔵
85		道標	1	—	75.0×33.0×14.0	館蔵
86	○	開市記念碑	1	昭和 35 年	96×53×12	太田町
87		揮毫に関する手紙	1	—	20.0×43.7	館蔵
88		年賀状	1	—	13.8×8.9	館蔵
89		色紙	1	—	27.3×24.0	館蔵
90		開市十周年記念帖	1	昭和 40 年	14.0×10.0	館蔵
91	○	御殿山碑	1	大正 4 年	158×94×18	三和町上廿屋
92		御殿山建碑式祭文	1	大正 4 年	29.8×44.3	館蔵
93	○	堂洞城碑	1	昭和 51 年	126×97×27	蜂屋町中蜂屋
94		焼米	1	—	—	館蔵
95		広報みのかも昭和 47 年 9 月号	1	昭和 47 年	26.0×15.0	館蔵

No.	形態	資料名	点数	制作年	大きさ	所蔵/所在地
96	○	「縣下十名所」標柱	1	昭和2年	225×36×34	蜂屋町上蜂屋
97	○	「岐阜縣名所」標柱	1	昭和2年	230×25×25	下米田町小山
98	○	中富町名史碑	1	昭和43年	139×102×37	中富町
99	○	渡し場跡地碑	1	—	105×125×30	太田本町
100		高橋余一画生活絵巻・別巻	1	昭和	21.0×1700.0	館寄託
101		未定稿『伊深村の歴史と民俗』	3	—	26.0×18.0	館蔵
102	○	台臨記念碑	1	昭和4年	—	—
103	○	金毘羅大権現碑	1	嘉永7年	—	—

〔凡例〕

- ・「形態」列について、記号があるものは写真パネルとしての展示であることを示す。（○は石碑、◇は歴史資料）
- ・「大きさ」列について、石碑は現物の（高さ）×（幅）×（奥行）、歴史資料は（縦）×（横）×（高さ）〈単位：cm〉である。
- ・「所蔵/所在地」列について、歴史資料はその所蔵を、石碑については現物の所在場所を示す。

【参考】

市内の記念碑の悉皆調査については以前よりあった構想だった。この度は、現在美濃加茂市が文化財保存地域活用計画の策定中という时期的なタイミングもあり、長期にわたる調査期間を経て企画展としての開催に至ったものである。記念碑の現地調査については、『美濃加茂市史』を基本資料としながら、『美濃國加茂郡誌』や『大古井』などの郷土資料も援用したが、『美濃加茂の石仏』や『美濃加茂の文学碑』をはじめとした社会教育課の時代から現在に至るまでの調査の積み重ねも、とても大きな助力となった。その他、西山喜洋氏の『市内遺物の分布調査と教材化－記念碑と道標を中心に－』などは所在が明記されるため場所の把握を容易にした。記載されている現地から散逸しているものなども多くあったが、地域での聞き取りからその状況が明らかになる場合もあった。

現地での基本調査としては、記念碑の大きさ（縦〔高さ〕×横〔幅〕×奥行）の測定、銘文の記録、写真の撮影を行った（最終的には248点の記念碑を調査した）。記念碑の現地調査と並行して、記念碑建立に関わる具体的な記録や文書などについて館蔵資料を中心に調査をした。旧町村役場保管の資料も含めて想像以上の関連資料が見つかり、その多くを展示品として活用することができた。

準備段階には記念碑、史蹟研究の第一線で活躍されている名古屋大学名誉教授の羽賀祥二先生にご指導、ご助言をいただいた。また現地でも、位置づけが難しかった館蔵資料の解釈などについて実物を見ながらご指摘をいただき、また現地にもご同行いただいて、先生の所見をお聞かせいただいた。

「広報みのかも」2024年3月号には、お知らせ欄にて市民の方々への、地域の記念碑に関わる情報提供を呼び掛けた。結果として4名（電話2件、来館2件）の方から貴重な情報をいただくことができた。展覧会開催までに、調査した記念碑をグーグルマップ上に表示させるマッピング作業を実施。地図上に記念碑を分類ごとで色分けをしながらピン表示し、いずれかを選択すると詳細な情報（場所、年代、銘文等）が表示されるといったものである。その他の関連するコンテンツ（美濃加茂事典などデータベース）などのURLも添付できる。「みのかもの石碑たち」として、文化の森ホームページのデータベース「地域の文化資源」に格納した。今後、指定文化財や石仏などのマップ化にも援用されていくことが期待される。



〔展示全景 1〕



〔展示室全景 2〕



〔展示全景 3〕



〔マップ・データベース紹介〕



〔ミュージアムトーク〕



〔拓本講座「刻まれた石をうつす」〕



〔特別講演「記念碑を建てるということ」〕



〔現地ツアー「刻まれた石をめぐる」〕

【アンケート結果】（全 151 枚）

選択設問から

①展示の資料・作品の見やすさ（配置、明るさ、空間など）にご満足頂けましたか？

・満足	70
・ほぼ満足	53
・ふつう	25
・やや不満	2
・不満	0
計	150

②展示の資料・作品の分かりやすさ（解説、説明、パネルなど）にご満足頂けましたか？

・満足	69
・ほぼ満足	54
・ふつう	24
・やや不満	3
・不満	0
計	150

③展示の資料・作品から満足感（感動、発見、知的刺激など）が得られましたか？

・満足	76
・ほぼ満足	47
・ふつう	25
・やや不満	2
・不満	0
計	150

③この展示を他の人に伝え、来館を勧めたいと思いますか？

・大いに	65
・少し	50
・どちらともいえない	32
・あまりすすめたくない	1
・すすめたくない	0
計	148

自由記述から

- ・仏語で「刻石流水」という言葉が大好きです。後世の人のために大切な言葉は、石に刻んでおくべきだと思います。
- ・ひとつひとつ歴史と文化に見いってしまいました。石を刻む、その場で、昔の声が聞こえて来そうです。
- ・石碑はいろいろな場所で目にすることはあるが、風化による欠けや漢文古文で書かれているため、判読しづらいことが多いです。足を止めて読んでみる努力を怠りがちでしたが、その土地への貴重な情報などが残され、伝えようとしていることに、改めて気がつきました。これを機に急がずに、一歩立ち止まって読んでみるようにしようと思います。
- ・市内にこんなに石碑があるなんて知りませんでした。意味もあるとは思っていましたが、以前よりよく分かることが出来よかったです。
- ・先ず第一に感じたのは市内にこれほどの石碑や石版が残っていることに驚きました。それだけ歴史ある町ということでしょうか。太田より古井に、加えて山之上にも蜂屋にも伊深にも沢山の碑が建てられていたということと、更にこれを掘り起こし細かに解説してくださったことに大感激でした。
- ・日頃、車での移動が多いので、こういったことを目に止めず知らないことばかり、たくさんの新しい気づきがありました。自分の地域ばかりを今度みてみたいです。じっくり見ていたら、もっと面白いと思いますが時間に追われている私は数回に分けてこないかね。まとまった時間なくて……。心が豊かになるってきつこういことですね。
- ・先代の方々の想いや、祈りがひしひしと伝わってくるような時を超えたすごい力が石にはあるのだと感じました。
- ・各地で見る石碑に地域のあゆみ、心願い等がこめられていることを知り、そこに生きていた人々に思いを馳せることができました。また、思いように展示を作ってくださった文化の森の皆様方の努力や思いも伝わってきました。見えているものから、その場では見えない世界をつなげてくださりありがとうございます。
- ・道で見かけて『この石はいったい何だろ？』から少し進歩した気分です。
- ・今回の「石碑」も着眼点が良いと思います。切り口を変えてみると、同じ場所同じ時代もまた一味変わって見える。そう感じさせられました。
- ・良くこれだけ集めたものです。展示されなければ知りもしなかった石碑たち、知ることができ興味が持てました。ルート表等あれば一度めぐってみるのも良いかも。スマホでかざしてみました。
- ・普段何気なく見ている石碑でしたが、関係する資料を詳しくつき合わせ、地域の歴史や石碑に關割った人々の想いなどが浮かび上がり大変面白いと思いました。
- ・日常では通りすぎて、気に求めていなかった。石碑を理解し調査、残すことを今回目にするのができ、郷土を知ることができました。ありがとうございました。

収蔵品展とそのほか

【民具展示館・生活体験館】

□蚕とまゆ展

会 期：2023年5月13日（土）～8月27日（日） 〈92日間〉

会 場：民具展示館、生活体験館

展示点数：約40点

観 覧 料：無料

【展示品リスト】

No	資料名	展示場所
1	桑摘み爪	民具展示館
2	桑抜き器	民具展示館
3	桑切包丁	民具展示館
4	蚕の一生	民具展示館
5	色々な種類のまゆ	民具展示館
6	桑摘みカゴ	民具展示館
7	カルトン	民具展示館
8	羽箒	民具展示館
9	給桑台	民具展示館
10	イアミ	民具展示館
11	火鉢	民具展示館
12	モズ折り機	民具展示館
13	島田簇	民具展示館
14	くるみ膳	民具展示館
15	給桑台	民具展示館
16	モズ	民具展示館
17	エンザトリ	民具展示館
18	座繰り機	民具展示館
19	カセクリキ	民具展示館
20	真綿作り機	民具展示館
21	繭袋	民具展示館
22	繭カゴ	民具展示館
23	大八車	民具展示館
24	蚕種紙	民具展示館
25	はかり	民具展示館
26	寒暖計	民具展示館
27	ダスター	民具展示館
28	繭はかり	民具展示館
29	蛾輪	民具展示館
30	目棚	まゆの家
31	イアミ	まゆの家

32	養蚕火鉢	まゆの家
33	給桑台	まゆの家
34	エンザトリ	まゆの家
35	回転族	まゆの家
36	マユカゴ	まゆの家
37	クワツミカゴ	まゆの家
38	モズ	まゆの家

□ていねいな暮らしと道具展 害虫とうまく付き合う暮らし

会 期：2023年9月9日（土）～2024年3月24日（日） 〈162日間〉

会 場：民具展示館

展示点数：20件29点

観 覧 料：無料

【展示品リスト】

No	資料名	点数	サイズ（cm）
1	子ども蚊帳	1	165.0×103.0×64.0
2	蠅帳	1	45.8×46.0×91.0
3	蠅帳	1	44.3×56.4×16.4
4	蠅取棒	2	口径：5.3、長さ：99.2
5	蠅取器	1	直径：8.0、長さ103.0
6	蚊遣り器	1	10.2×10.6×11.0
7	ハイトリック	1	24.0×24.6×14.2
8	ハイトリック	1	24.0×24.3×14.9
9	蚊取り線香	2	12.4×12.4×3.4
10	金鳥 BHC	1	直径：6.0、高さ：21.8
11	蠅取粉	3	直径：8.4、高さ：2.0
12	虫封じのお札	2	13.6×4.1
13	疳熱丸	1	14.2×9.3
14	ヒロズキンバエ（標本）	5	
15	ミドリキンバエ（標本）	1	
16	オオクロバエ（標本）	1	
17	電撃殺虫ラケット	1	43.5×16.0×64.0
18	液体蚊取器	1	8.8×6.8×9.0
19	蠅とりガラス	1	直径8.0 長さ103.0
20	ハエ取り紙	1	直径：2.2、長さ：55.0

【美術工芸展示室】

□収蔵品展 絵を見て、考えよう 動物見つけ

会 期：2023年3月11日（土）～4月23日（日） 〈38日間〉

展示点数：13点

観 覧 料：無料

【展示品リスト】

1	山田貞實	老父戦后を守る	油彩、キャンバス	1942（昭和17）年
2	渡辺 浩	飛驒の里（雀）	紙本着色	1982（昭和57）年
3	宮本脩子	ペットショップ	紙本着色	1996（平成8）年
4	宮本脩子	市場へ	紙本着色	1997（平成9）年
5	村瀬卓郎	回想 ・ 旅の流転	油彩、キャンバス	1994（平成6）年
6	林武史	山のかたち（青）	ボールペン、紙	2020（令和2）年
7	林武史	山のかたち（黒）	ボールペン、紙	2020（令和2）年
8	林武史	山のかたち（赤）	ボールペン、紙	2020（令和2）年
9	山田玉雲	闘（闘鶏）	紙本墨画淡彩	不明
10	岡本一平	漱石先生	紙本着色	不明
11	岡本一平	蓬莱	紙本着色	不明
12	大矢峻嶺	長春鶏図	絹本着色	1933～34 （昭和8～9）年頃
13	船坂芳助	My Space and My Dimension-771	シルクスクリーン、木版 コラージュ、紙	1982（昭和57）年

□書かれた「この地」を読む みのかもブックマーク パネル展

会 期：2023年5月11日（木）～6月4日（日） 〈22日間〉

展示点数：46点

観 覧 料：無料

【展示品リスト】

No.	資料名	発行年
1	広報みのかも No. 1067 パネル：第1回 江戸時代の寄稿文から 貝原益軒『岐蘇路記』	
2	貝原益軒『岐蘇路記』	1685（貞享2）年
3	秋里籬島『木曾路名所図会』	1805（文化2）年
4	広報みのかも No. 1068 パネル：第2回 江戸時代の道中物から／十返舎一九『木曾街道膝栗毛』	
5	十返舎一九『木曾街道膝栗毛五編上』	1814（文化11）年
6	仮名垣魯文『岐蘇街道栗毛彌次馬』	1856（安政3）年
7	広報みのかも No. 1069 パネル：第3回 明治時代の中山道の道中記／大橋乙羽『千山萬水』	
8	大橋乙羽『千山萬水』	1899（明治32）年

9	広報みのかも No. 1070 パネル:第4回 北原白秋の来訪(1)「日本ライン」 ／北原白秋「日本ライン」『白秋全集 22 巻』	
10	北原白秋 『白秋全集 22 巻』	1986 (昭和 61) 年
11	日本八景名所図絵 『主婦の友』 八月号附録	1930 (昭和 5) 年
12	写真: 北原白秋 葉書 祐泉寺蔵	
13	絵葉書: 日本八景木曽川 (日本ライン) 古井青柳橋附近より下流を望む	
14	絵葉書: 日本八景木曽川 (日本ライン) 古井乗船場より小山観音を望む	
15	絵葉書: 東濃小山観世音	
16	絵葉書: (日本八景木曽川) 日本ライン上流 古井乗船場附近の勝景	
17	広報みのかも No. 1071 パネル: 第5回 北原白秋の来訪(2) 吉植庄亮と共に／吉植庄亮『歌集 風景』	
18	吉植庄亮 『歌集 風景』	1943 (昭和 18) 年
19	パンフレット: 観光ホテル 望川楼	
20	広報みのかも No. 1072 パネル: 第6回 「木曽川下り」と播隆の歌碑 ／田中純・小杉放庵『美濃と飛騨の旅』	
21	田中純・著 小杉放庵・画 『美濃と飛騨の旅』	1931 (昭和 6) 年
22	書簡図会 日本ライン	1926 (昭和 11) 年
23	パンフレット: 日本八景 日本ライン探勝案内	
24	絵葉書: (日本八景木曽川) 松ヶ瀬奔流より遥かに太田乗船場を望む	
25	絵葉書: 日本八景木曽川 (日本ライン) ライン上流今渡より太田橋を望む	
26	絵葉書: (日本八景木曽川) 木曽遊園より太田橋を望む	
27	広報みのかも No. 1073 パネル: 第7回 建築家ブルーノ・タウトの旅日記 ／ブルーノ・タウト 篠田英雄訳『日本美の再発見』	
28	ブルーノ・タウト 『日本美の再発見』	1981 (昭和 56) 年
29	絵葉書: 美濃太田駅前 亀屋旅館 (其ノ一)	
30	絵葉書: 美濃太田駅前 亀屋旅館 (其ノ二)	
31	広報みのかも No. 1074 パネル: 第8回 池波正太郎の青春記／池波正太郎『青春忘れもの』『日曜日の万年筆』	
32	池波正太郎 『青春忘れもの』	1974 (昭和 49) 年
33	池波正太郎 『日曜日の万年筆』	1982 (昭和 57) 年
34	広報みのかも No. 1075 パネル: 第9回 野田宇太郎の「文学散歩」を読む(1) ／野田宇太郎『東海文学散歩 第13 巻』	
35	野田宇太郎 『東海文学散歩 第13 巻』	1978 (昭和 53) 年
36	広報みのかも No. 1076 パネル: 第10回 野田宇太郎の「文学散歩」を読む(2) ／野田宇太郎『東海文学散歩 第12/13 巻』	
37	野田宇太郎 『東海文学散歩 第12 巻』	1978 (昭和 53) 年
38	写真: 東海文学散歩 取材ノート 野田宇太郎文学資料館蔵	
39	広報みのかも No. 1077 パネル: 第11回 立松和平のエッセイを読む ／立松和平『日本を歩く 第3 巻 中部日本を歩く』	
40	立松和平 『中部日本を歩く』	2006 (平成 18) 年
41	写真: 木曽川で見られる鳥 サギ	

42	写真：木曾川でみられる鳥 セキレイの仲間	
43	広報みのかも No. 1078 パネル：第 12 回 北川悦吏子のエッセイを読む ／北川悦吏子「木漏れ日と自転車」『恋愛指南書』	
44	北川悦吏子 『恋愛指南書』	2004（平成 16）年
45	『アウトドアと文藝 自転車に乗って』	2020（令和 2）年
46	『広報みのかも』 No. 1027	2019（平成 31）年

□収蔵品展 水辺の風景

会 期：2023 年 6 月 22 日（木）～7 月 6 日（金） 〈13 日間〉

展示点数：23 点

観 覧 料：無料

【展示品リスト】

No.	作家名など	題 名	技法・材質	制作年
1	坂井範一	鰯	油彩、キャンバス	1960（昭和 35）年
2	坂井範一	金華山	油彩、キャンバス	
3	舩坂芳助	海上の幻影	木版、接着剤による凸版、紙	1961（昭和 36）年
4	舩坂芳助	塵の海	木版、紙	1961（昭和 36）年
5	森岡完介	Message 82-4P	シルクスクリーン、紙	1982（昭和 57）年
6	長谷川三佐男	河口の夕映え	水彩、紙	
7	長谷川三佐男	港の朝	水彩、紙	
8	安藤真司	水の景色 2008-4	エッチング、アクアチント、 ドライポイント、紙	2008（平成 20）年
9	安藤真司	水の幻影 2008-1	エッチング、アクアチント、 ドライポイント、紙	2008（平成 20）年
10	安藤真司	水の景色 2008-3	エッチング、アクアチント、 ドライポイント、紙	2008（平成 20）年
11	坂井範一	溪流	油彩、キャンバス	1961（昭和 36）年
12	羽木理恵	ヨット	油彩、キャンバス	
13	加藤東一	谿	紙本着色	
14	画作・印刷・発行 清水市郎	嵐山渡月橋	石版筆彩、紙	1888(明治 21)年 7 月 23 日
15	画作・発行 渡邊忠久	近江八景之内 堅田ノ落雁	石版筆彩、紙	1888(明治 21)年 9 月 11 日
16	画作・印刷・発行 藪崎芳次郎	令嬢舊遊不忍ノ図	石版筆彩、紙	1889(明治 22)年 8 月 26 日
17	石印 楠山秀太郎	田子之浦真景	石版筆彩、紙	1881(明治 14)年 9 月 28 日
18	画作・印刷・発行 有山定次郎	汐干狩	二色石版、紙	1892(明治 25)年 5 月 19 日

19	画作・印刷・発行 有山定次郎	明治婦人風俗画 大磯海水	二色石版、紙	1892(明治25)年 1月23日
20	画作・印刷・発行 清水市郎	東海道薩埵山下之景	石版筆彩、紙	1889(明治22)年 10月26日
21	画作・印刷・発行 勝山繁 太郎 製造 美術着色会社	勢州二見ヶ浦之昇旭	石版筆彩、紙	1891(明治24)年 5月29日
22	画作・発行 渡邊忠久	洲寄之月	石版筆彩、紙	1891(明治24)年 6月11日
23	発行・画作 荒川藤兵衛 印刷 田中吉五郎	東京両國花火打上之景	石版筆彩、紙	1888(明治21)年 8月17日

□収蔵品展 動き出す記憶 ―60年前の美濃加茂―

会 期：2023年9月16日（土）～10月29日（日） 〈39日間〉

展示点数：1件8点

観 覧 料：無料

【展示品リスト】

No	資料名	点数
1	映像用フィルム	8